東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO　EMP Executive Management Program

東大EMP第7期プログラム
最終報告発表　概要

（2012年9月15日）

チーム・メンバー	課題テーマ	タイトル	概要
[チーム1] 澤田　史朗 高橋　和彦 田口　芳郎 田沼　和則 平尾　和義 山科　裕子	健康的で活力のある超高齢化社会経営	「一人二役社会」 ～マルチライフデザイン社会の実現～	我が国は、世界のどの国も経験したことのないレベルとスピードで高齢化を経験している。多くの先進国が同様の傾向を辿ると予想される中、「課題先進国」の我が国が「超高齢者社会経営」のモデルを示すことが期待されている。 今回の発表では、今後深刻化するであろう、都市部の企業労働者の退職問題にターゲットを絞ってソリューションを提示することにした。 この問題に対する現在の政策対応は、終身雇用と定住・持家主義に代表される20世紀型企業人モデルの維持を前提として、退職年齢の引き上げを志向しており、これが社会や企業の活力減少に繋がり、これが更なる退職年齢の引き上げを求める世論に繋がる悪循環に入りつつある。 我々はこの悪循環を脱するため、21世紀型企業人モデル＝「一人二役社会」の実現を提案することとしたい。すなわち、1つの企業で定年まで働き詰めるだけの人生から、人生を2分割し、前半人生は企業で経験を積み、後半人生はその経験を活かしつつ、自分のライフデザインに従って、住みたいところに住み、夫婦揃ってやりたい仕事やAvocation（副業・趣味）をできる社会を目指していく。 我々の発表では、これを実現するための実践ツールとして、①後半人生を考える機会としての「Life Re-design塾」、②地域や職業の既存バリアーを克服するため、各地域に設置されるライフデザイン実現組織「HOPE」の2つの立ち上げについて具体的な提言を行うこととしたい。
[チーム2] 石田　大喜 伊東　誠 牛久保　伸司 須藤　直之 高井　信彦	資源・エネルギー活用の規律による環境保全	「環境資源をコモンプールへ」 ～共生社会の実現～	地球温暖化問題では、京都議定書の第一次約束期間が終了を迎えようとしているが、次に続く有効な枠組み・対策を世界で合意できずにいる。この問題を始めとし、エネルギー・環境問題の背景には様々な対立が存在している。 私たちは、この対立を乗り越えるために進むべき道が、経済合理性のある取組と共生に向けた自発的規範の醸成であると解し、それらの取組を通じて地球環境を全人類の共通の資産と捉える「コモンプール」とすることを提唱したい。

[チーム4] 伊藤　慎介 岡田　明彦 柏村 美生 楯　直人 廣渡　清栄	多様な宗教、文化、政治を前提とした共通行動規範確立	「Publivate ENGAWA」によるネットワーク型社会の構築	多極化された世界となった今、地球のどこかで紛争が起こっても第三者が調停に入り平和な社会をもたらすことが困難な時代に突入した。日本の周辺でも、大きな衝突に成りかねない事件が起こるようになった。基となる局所的二項対立は解消までには時間がかかり、また解消するかも不明である。そんな中、大上段に構える思想ではなく、“他者を感じることが出来るグレーゾーン（縁側）を設定し、関係型リーダーを中心として、緩やかな規範（関係性）が自ずと生まれてくる”ような現実的な方法を模索した。 日本には、「縁側」という外と内とを接続する建築文化があり、そのような中間的な「場」と、その「場」が有効に機能できるような「仕掛け」を継続させることにより、コミュニティを再生する事等に成功している事例がある。局所的な試みではあるが、それを第一歩として成功させ、世界に提言できるような「共生」モデルとして発展させられないか考察を行った。
[チーム5] 伊藤　洋士 神部　弘毅 佐伯　美奈子 高橋　秀雄 廣吉　康平	先端科学技術の効用と新世界観の形成	科学技術と向き合える社会システムの提案	約250年前の1755年11月1日： ポルトガルの首都リスボンに発生した大地震は、南ヨーロッパの各地に甚大な被害をもたらしただけでなく、その後の世界観に大きな影響を及ぼす。この事象を契機に、それまでのキリスト教的世界観から解放され、近代的な科学的世界観への転換を主張し、この流れが20世紀における科学技術の進歩とそれに基づく物質文明の隆盛に繋がる。 リスボン大地震から約250年後、日本にて東日本大震災が発生し、リスボン大地震と類似点もあるが、20世紀において高度に発達した科学技術によってもたらされた物質文明による弊害も発生した。現在の科学技術の発展は人々に幸せをもたらすのか、自然と人類、科学と人類との共存が可能なのか…という漠然とした不安感が増す状況に陥っている。 高度に進む科学技術と向き合い、いかに英知を結集して人々の不安感を取り除くことができるのか、そして、250年前と同様に人類の世界観の転換についての提案を行う。